

皆様、本日は秋季大祭おめでとうございます。

誠に畏れ多いことではありますが、明主様と共におられる主神は、私ども一人ひとりにとって、最も近く、最も大切な方です。

私どもが吸ったり吐いたりするこの息の中には、源の息があり、その息は、永遠に生きておられる方の息、すなわち、私どもの本当の親であられる主神の息です。

主神は、ご自身の創造を始められるにあたって、この息の中に、ご自身の永遠の命と意識と魂を込められ、私どもを分霊^{わけみたま}として生んでくださいました。

私どもは、主神の息を、私どもの始まりである天国におらせていただいている時から、明主様と共にお預かりしていたのであります。

私どもの父母先祖の方々も、主神の息をお預かりし、今も生きておられます。

そして、明主様が「万有はことごとく呼吸している」とみ教えくださいましたように、私どもと一体である天地万物一切は、主神の息によって、いきいきと働いておられます。

明主様は、ご自身の本当の親が主神であるという認識に至ったことを主神に意思表示され、その思いを主神がお受け取りになられたからこそ、ご自身の中で「メシヤが生まれた」ことを確信されたと思います。

そのことを、明主様は、「新しく生まれる」と仰せになり、また、「生まれたての赤ん坊」とも仰って、その喜びを表現されたのではないのでしょうか。

私は、「新しく生まれる」ということは、主神の息を、新しい息として嗣がせていただくことであり、主神の永遠の命を新しい命として嗣がせていただくことであると思います。

主神は、私どもをご自身の子とされ、共に天国に住ませたいと願っておられます。

そのために、主神は、明主様を私どもの模範としてくださいました。

私ども一人ひとりの中には、私どもの本当の親であられる主神と、その真^{まこと}の子として新しくお生まれになった明主様がおられるのであります。

だからこそ、私どもは、主神の願いにお応えすべく、明主様が成し遂げられたように新しく生まれさせていたいただきたい、と願うことを許していただいているのではないのでしょうか。

本日のみまつりを迎えて、私どもは、今も生きておられる父母先祖の方々と共に、また、万物と共に、主神の新しい息を嗣がせていただき、永遠の命を受け継ぐ主神の子となるべく養い育てられていることに感謝しつつ、明主様と共にあるメシアの御名にあって、主神をお讃え申し上げたいと思います。

先程は、皆様を代表して、〇〇さんより感謝奉告のご発表をいただきましたが、皆様が日々のご生活の中での様々な出来事を通して感じておられることの一部をお伺いすることができ、ありがたく思っております。

ご発表をお伺いする中で、私どもが感謝することも、感謝できないことも、また、人の幸せを祈ることも、祈れないことも、人間の考える善悪の尺度を越えて、主神の大いなる赦しの中で、主神が私どもの心をご自身の心としてお使いになり、養い育てておられるみ業として、明主様を通して主神に帰させていただきました。

続いて、成井理事長より、ご自身が新しい信仰の段階へと前進すべく、真摯に取り組んでおられるお心をご披瀝いただき、感謝いたしております。

私は、⑤之光教団の皆様が、常日頃、「真善美」配布、「会う、聞く、浄霊」などを通して、信仰の学びと実践に地道に取り組んでおられますことに対し、頭の下がる思いであります。

また、皆様が、自らの意識の中心の一点におられる主神と明主様に、努めて心向けられると同時に、すべては主神の表現であることを認めさせていただくという、「神中心」の全く新しい信仰を培うべく励んでおられますことを、大変心強く感じております。

神中心の信仰とは、何事においても、主神が主人公であることを認める信仰であります。

しかしながら、私は常に、自分中心に物事を考えていたように思います。

「会う、聞く、浄霊」につきましても、私は、自分が相手に対して行う、自分中心の「会う、聞く、浄霊」ばかりを考えていたように思います。

「会う、聞く、浄霊」の主人公は、主神であり、明主様であります。

主神が明主様を通し、私ども一人ひとりに対し、「会う、聞く、浄霊」をなさっておられるのであります。

ですから、私どもは、「会う」ということについては、“明主様はわたしにお会いくださろうとして、いつもお顔を向けておられたのですね、と、「聞く」ということについては、“明主様がわたしの思いを聞いてくださろうとして、いつもお耳を傾けておられたのですね、と、また、浄霊ということについては、“明主様が差し伸べたみ手をもって、わたしを浄めてくださり、天国に迎え入れておられたのですね、と、まず、このように明主様にお返事

させていただく礼節が必要であると同時に、このようにお返事させていただくこと、このように認めさせていただくことが、まず、基本となる「会う、聞く、浄霊」の実践なのではないでしょうか。

このようにして、明主様は、自分だけではなく、自分の中に結ばれた父母先祖の方々を始め、多くの方々に対し、分け隔てなく呼びかけ、働きかけてくださって、すべてを赦し、受け入れてくださり、天国に迎え入れてくださっているのです。

そのことを気づかせようとして、明主様は、目に見える形での「会う、聞く、浄霊」を私どもにさせてくださっているのではないのでしょうか。

今や、夜昼転換を成し遂げられた主神は、全人類を赦し、天国に迎え入れてくださっているのです。

このように、主神のほうでは、天国の門をすでに開いてくださいました。

今度は、私ども人間のほうから、自らの意思をもって、天国の門を開くことを主神は願っていらっしゃいます。辛抱強く待っていらっしゃいます。

明主様が、「光明ははや射し初めぬ諸人よ心の扉うち開けかし」というお歌をお詠みになり、私どもに対し、“光明はすでに射し始めたのだから、心の扉を開きなさい、”と訴えておられるということは、このことを示していると思います。

主神は、私どもが天国の門を開くことができるようにと、私ども一人ひとりに天国の門を開くカギを預けてくださいました。

そのカギとは、私どもが主神に対して意思表示させていただけるというカギであります。

ですから、私どもがその意思表示をさせていただきたいと願うのであれば、“全人類とその父母先祖の方々と共に、また、万物と共に、赦され、救われたものとして、天国に迎え入れてくださいましたことを感謝いたします。すべてのものと共に天国に立ち返らせていただき、わたしのものとしていた命と意識と魂を、明主様を通して主神に委ねさせていただきますので、み心を成し遂げてくださいますように、すべてのものと共にお使ください。吸う息、吐く息のうちにお仕えさせていただきます。このみ恵みがすべてのものに分け与えられますように、と、たとえば、このように主神に申し上げることが、天国の門を開かせていただくことになると思います。

このように明主様を通して天国の門を開くカギをお預かりし、主神のご意思にお応えすることのできる私どもは、何と幸せなことでありましょう。

本日、私どもは、聖地・熱海瑞雲郷に集わせていただいております。

聖地について、明主様は、天国のひな型であるとみ教えてくださいました。

ですから、私どもがこの聖地の中におらせていただいているということは、私どもは、分^{わけ}霊^{みたま}として今、天国におらせていただいている、と受けとめたほうがよいと思います。

私は、皆様が「聖地総合建設」に向けて、ご奉仕の真心を捧げてくださっていることに対し、心より感謝いたしております。

私どもがその建設へのご奉仕をさせていただくにあって、心に思うべきことがあると思います。

主神が私どもの魂の中心に、天国を、すなわち、目に見えない聖地を建設してくださったからこそ、私どもは、目に見える聖地の建設奉仕にお仕えすることができるのであります。

そして、主神は、私どもの魂の中心にある天国を、大切に維持、管理し、美しく保っておられることを教えてくださいましたために、私どもに目に見える形での聖地の維持、管理や清掃をさせていただきながら行っているのであります。

聖地には、草木や花など、自然界のいろいろなものがあります。

主神は、すべての始まりの天国において、私どもだけではなく、天地万物一切に対し、ご自身の創造のみ旨、すなわち、ご自身の子を生むというみ旨をお授けになりました。

ですから、天地万物一切は、主神のこのみ旨にお仕えし、そのお役に立とうとして、一生懸命お働きくださっております。

そのことを私どもに教えてくださいましたために、明主様は、目に見える聖地を用意してくださったのではないのでしょうか。

主神は、火も水も土も空気も、木や草も石も、万物すべてを総動員して、また、自分を取り巻く身近な人々を始め、すべての人々を総動員して、一人ひとりが天国に立ち返って、主神の子供となることができるように応援してくださっている、と受けとめたほうがよいと思います。

そして、私どもが、どんなところへ行っても、また、どんな心の状態であっても、自分の中心には天国という聖地があると信じ、その聖地を携えて毎日を過ごさせていただくことが大切であると思います。

また、私どもは、「聖地総合建設」のための献金や感謝献金、お玉串料など、お金をお捧げする御用に努めさせていただいておりますが、そのお金と私どもとは、切っても切れない一体の関係にあります。

私どもは、お金のことで悩まされたり、お金のことで喜んだりいたしません。

また、私どもがいろいろなものの売り買いをお金でさせていただいている

ように、お金は、万物を代表する働きをしております。

その万物を代表するお金は、先程申し上げましたように、主神のみ旨にお仕えし、そのお役に立ちたいと望んでおります。

にも拘らず、私どもは、長い間、万物を自分たちのものとして、自分たちの都合で自由に扱い、そして、あらゆるものの価値をお金をもって評価しておりました。

献金をさせていただく時にも、神様のお働きでさえ、お金をもって評価しているところがあったかもしれません。

そうした私どもを、主神は、夜昼転換をもって赦してくださいました。

そして、私どもと一体であるお金を始めとする万物を、ご自身のものとしてお受け取りになり、天国に迎え入れてくださいました。

ですから、私どもがお金を捧げさせていただけるということは、主神が、万物と一体である私ども自身を、先祖の方々と共に、受け取ってくださるということではないでしょうか。

そして、主神がご自身の子を生むというみ業に、万物と共にお仕えさせていただけるということではないでしょうか。

このようにして、主神がお金を始めとする万物と、万物と一体である私どもをお受け取りになり、すなわち、主神がお創りになったものを主神ご自身のものとして獲得されることによって、ご自身の天国は、より恵み豊かな、より光り輝く天国として栄え、ご自身の創造のみ業は、ますます進んでゆくのではないのでしょうか。

私どもは、地上が豊かに栄えてゆくことを望みますが、まず何よりも願うべきことは、天国が栄えますようにということであります。

天国が、より栄えてこそ、その写しである地上も、より栄えてゆくのではないのでしょうか。

そしてまた、そのようにして地上に現れた栄光が天国に帰されることによって、天国は、更に一層恵み豊かに栄えてゆくと、私は信じております。

そうした天から地への、また、地から天への絶え間ない還流の営みが、主神の創造のみ業であります。

主神の息をお預かりしている私どもは、“吐く息、吸う息のうちに、すべてのものと共に、主神の還流の営みにお仕えさせていただきますように、と明主様を通して主神に申し上げ、天と地とをひとつものとして創造のみ業を成し遂げておられる主神のお役に、少しでも立たせていただきたいものであります。

実りの秋を迎えました。私どもが作物の種を蒔き、育て、やがて収穫の時

を迎えるように、私ども自身が主神によって種を蒔かれ、育てられていることに感謝させていただくとともに、主神が私どもを良き実りとして、万物と共に収穫してくださり、主神のみ業がますます栄えますようにとお祈りしつつ、明主様と共にあるメシアの御名にあって、全人類とその父母先祖の方々と共に、また、天地万物一切と共に、主神をお讃えさせていただきます。

ありがとうございました。

以 上